

医療介護連携会議への参加を通して

令和4年10月19日、所沢・松井ブロック医療介護連携会議がZOOMで開催され、当センターの看護師と社会福祉士が出席しました。

この会議では、地域の方々が切れ目のない療養を受けられるよう、医療関係者、地域包括支援センター及び訪問事業関係者が定期的に集まり、家庭と医療の連携に向けた情報共有を行っています。

今回は「学んでみよう ACPの初めの一步」をテーマに講義・ディスカッションを行いました。



ACP(advance care planning)とは、もしもの時に備えて、受けたい医療やケアについて、本人の希望や思いを家族やかかりつけ医、介護ケアに携わる人などと共有しておくことをいいます。

医療機関では、入院時や急変時にACPの確認を行いますが、実際には、体調が悪く本人の意思を聞けないことがあります。また、家族が決定をする場合、事前に本人の意思を聞いていないために、人工呼吸器による延命処置や胃ろうなどの経管栄養、その他重要な決定をする際に強い戸惑いや恐怖を感じるケースがあるようです。

一方、在宅介護の現場では、ACPから死を連想し、嫌悪感を示す利用者があるそうです。会議を通じて、社会全体でACPを正しく理解することが重要であると認識しました。

日本では家族間であっても自分らしい生き方・最期の時の過ごし方、人生の決定という深いテーマについて気軽に話し合う場面は少ないように感じます。ましてケアマネージャーやヘルパーにACPの話しをすると、とても強い信頼関係が必要になります。

しかし、もし事前に本人の意思を確認できていたのなら、在宅であっても医療施設であっても自分らしく過ごすことができます。

人生100年時代といわれるこれから、自分らしく生きるために、もっと気軽にACPを話し合える気運を高めることが必要です。

そのために、私たち医療従事者は、本人の希望や思いに寄り添えるよう地域の医療・福祉関係者との連携を一層深めてまいります。



市民医療センターでのACP確認の例

アドバンス・ケア・プランニング

令和 年 月 日 氏名 _____



1. あなたが受ける治療やケアの希望は何ですか

- 一日でも長く生きられるような治療を受け続けたい
- とにかく病気が治ることを目的とした治療を受けたい
- できるだけ自然な形で最期を迎えられるよう、必要最小限の治療を受けたい
- 延命は考えず、穏やかに過ごしたい

2. どこで、どのように過ごしたいですか？

★もしも病気や障害など、自分で歩けなくなり介助が必要な状況になった時は、どこでどのように過ごしたいですか？

	どこで		どのように
<input type="checkbox"/>	病院	<input type="checkbox"/>	家族に協力してもらいたい
<input type="checkbox"/>	施設	<input type="checkbox"/>	食事やトイレなど、最低限自分でできる生活がしたい。
<input type="checkbox"/>	自宅	<input type="checkbox"/>	とにかく長生きしたい
<input type="checkbox"/>	その他	<input type="checkbox"/>	家族に迷惑をかけたくない

3. 最期の時に過ごしたい場所はどこですか？

★もしも、病状が進み、最期の時が近くなった時に過ごしたい場所はどこですか？

<input type="checkbox"/>	病院	<input type="checkbox"/>	自宅
<input type="checkbox"/>	施設	<input type="checkbox"/>	その他
<input type="checkbox"/>	わからない		